

## 平成 30 年度の委員会運営方法について

### 1 付議事件

オープンイノベーション等による企業支援や誘致促進、グローバル都市の実現、文化芸術創造都市や観光・MICEの推進等に関すること。

### 2 委員会の名称と付議事件の更新趣旨

横浜の持続的な成長・発展のためには、技術革新や価値観の多様化が進む中、これまで議論されてきた文化芸術や観光・MICEに加え、企業支援や誘致、グローバル化への対応等による都市の魅力・活力の創出を進める必要がある。これらの課題に広範に対応するため、委員会の名称と付議事件を更新する。

### 3 市会運営委員会（平成24年5月8日開催）での特別委員会運営方法に関する決定事項

- ・付議事件の調査・研究を目的として、委員間の意見交換、事例視察や参考人意見聴取などを行う。
- ・委員会報告書は、付議事件に対する結論や一定の方向性を得たとき又は議員任期が満了するときに議長に提出するものとする。

### 4 平成 30 年度調査・研究テーマ(案)

横浜における魅力ある都市活力の創造について（案）

(参考：過去の観光・創造都市・国際戦略特別委員会における調査・研究内容)

### 【平成 29 年度】横浜の魅力をつなぐ・広げる取り組みについて

<選定理由>

横浜市はラグビーワールドカップ 2019™及び東京 2020 オリンピック・パラリンピックを控え、国内外からの来浜客をもてなし、横浜の魅力を国内外に発信していく取り組みがさらに重要になっている。そのため、この好機を捉え、横浜が持つ多くの魅力をつなぐことにより、さらに大きな魅力を生み出し、それを効果的にアピールし、横浜の魅力を大きく広げていくことが必要である。そのことにより、さらに多くのお客様に横浜が選ばれ、訪れた方々に御満足いただくことが重要であり、さらには五輪終了後にも何度でも横浜に足を運びたくなる都市となるよう、横浜の魅力を持続的なものとする取り組みが必要と考える。当委員会では、今年度はこのテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査・研究を行うこととした。

### 【平成 28 年度】選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進について

<選定理由>

横浜市は、中期 4 か年計画の戦略 3 「『魅力と活力あふれる都市の再生』戦略」に基づいて、市民・企業・行政が一体となり、世界中の人々や企業を引きつけ、都市の活力とにぎわいを創出するまちづくりを推進している。

これまで本特別委員会では、観光・M I C E の推進や文化・芸術等の創造都市戦略の検証などをテーマに委員会活動を行ってきたが、今までの議論は継続しつつ、本委員会の付議事件のうちまだテーマとして取り上げられていない国際コンテナ戦略港湾の推進や国際戦略総合特区の推進についても議論し、国際港都横浜が選ばれるためにどうあるべきかを複合的な観点から検証していく必要がある。

よって本特別委員会では、このテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査・研究を行うこととした。

### 【平成 27 年度】東京オリンピック等を見据えた横浜らしい観光・M I C E の推進について

<選定理由>

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、今後、海外からの観光客数が大幅にふえることが予想される。横浜が M I C E 分野において、韓国やシンガポール等の海外都市との国際競争に打ち勝っていくためには、五輪を好機と捉え、横浜に多くのお客様をお迎えし、オリンピック終了後も選ばれる都市となるよう環境を整備していくことが必要である。

そのためには、大型コンベンションなどを受け入れる施設の整備や多言語に対応できる案内手法の導入、横浜に潜在する横浜らしさの発掘とその活用など多岐にわたる施策の展開が求められる。

当委員会では、このテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行っていくこととした。

### 【平成 26 年度】横浜における創造都市戦略とその検証について

<選定理由>

本市においても、ヨコハマトリエンナーレ 2014 や東アジア文化都市 2014 横浜などさまざまな創造都市に関する事業を行っているが、本来の創造都市が意味するところは、地域の人的・文化的資源を活用し、文化と産業を融合させ創造的な問題解決をしていき、持続可能な都市に再生させていくことや、多様性があり寛容で新しいアイデアに開放的な場所を好むクリエイティブクラスが集まることにより、地域経済が成長していくことである。現在の施策については文化的な要素に偏りがちであるため、本市がこれまで行ってきた創造都市戦略の検証及び今後の施策のあり方等について調査・研究を行うこととした。

### 【平成 25 年度】横浜の発展に寄与する M I C E 戦略について

<選定理由>

本市は、これまでアフリカ開発会議等の国際会議を成功させてきた実績がある。しかし、M I C E の推進による経済波及効果を狙い大規模な国際会議や展示会等の誘致競争は、世界の各都市のみならず日本国内の各都市間でも激化している。その大きな理由の一つに高い経済波及効果が上げられるが、どのような M I C E の推進と実施が本市の経済などの発展に寄与できるのか、今後も本市が M I C E 開催都市として選ばれ続けるために、今後 10 年程度を見据えた本市の M I C E のあり方を議論する必要があると考えたため。